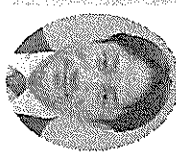


【平成8年】



薬害エイズ訴訟で菅直人に謝罪された

川田龍平 参院議員



平成八年三月二十九日に和解が成り立ちました。当時の厚生大臣だった菅直人氏が政府を代表して謝罪し、日本で初めて国と製薬会社が正式に責任を認め、薬害裁判で製剤を三歳から使い始めました。非

ある。署名を公表し、原告として裁判を闘った、参議院議員の川田龍平氏(41)が当時を振り返りながら、今もなお残る社会の構造的な問題を指摘する。

その後六カ月で血友病と診断された私は、アメリカで製造された非加熱製剤を三歳から使い始めました。非

平成八年三月二十九日に和解が成り立ちました。当時の厚生大臣だった菅直人氏が政府を代表して謝罪し、日本で初めて国と製薬会社が正式に責任を認め、薬害裁判で製剤を三歳から使い始めました。非

加熱製剤は不特定多数の人の血液を集めて濃縮したものです。加熱処理がされていなかったため、HIV(ヒト免疫不全ウイルス)に汚染されている可能性があり、一九八〇年代初期にはすでにその危険性が指摘されていきました。また、非加熱製剤を投与された血友病患者のあいだで、HIVによって発症するエイズ(後天性免疫不全症候群)が広がっているというニュースも出ていたのです。

にもかかわらず医師は、「大丈夫ですよ」と言うだけで十分な説明をしませんでした。また、厚生省や製薬会社も情報を隠蔽して、「安全だから」

を見て、私は衝撃を受けるとともに、実名を公表することを決意しました。記者会見を開き、名前を明らかにしたのは平成七年三月六日です。その後、本を出版したり、新聞、テレビで取り上げられるようになると、一気に薬害エイズ問題が知れ渡るようになります。特に若い世代の人たちが共感してくれて、集会や講演会を開くことができました。

炎天下のなかの「人間の鎖」象徴的だったのが、七月に行なわれた「あやまってよ95 人間の鎖」です。真夏の炎天下のなか、三千五百人の若者が手を取り合っており、厚生省の周りを何重にも包囲しました。このとき私は、とても不思議な気持ちで、自分は不幸だと思いがち

らも、これだけ応援してくれる人たちがいることに幸せを感じていました。 「人間の鎖」は、世論を大きく動かす。政治にも大きな影響を与えます。平成八年一月に厚生族だった橋本龍太郎さんの政権が誕生すると、厚生相に就任した菅直人さんの指示でプロジェクトチームが発足。これまで「確認できない」とされてきた資料が発見され、厚生省が非加熱製剤の危険性を認識していたことがわかりました。

そして、二月には、菅さんが国の責任を認めて正式謝罪し、製薬会社も三月に謝罪。三月二十九日の和解へとつながっていきます。

当時の私は製薬会社や関わった個人に対する怒りを強くもっていましたが、しかし、しばらくして、彼らが罪を認めて謝罪をすれば済む話なのか、本質は社会の構造的な問題にあ

るのではないかと考えるようになります。いのもや人権よりもお金の企業利益が優先される考え方はいまま変わらず、政治家や学者、医者、医者、医者といった構造的な問題はいたるところに残っているように思えます。また、情報公開についてもいまだに十分とは言えません。

一方で、現在のグローバル化によって、国内の薬メーカーが他国に太刀打ちできなくなっています。日本の医療産業が潰れてしまえば、患者の安全を守ることができなくなるかもしれません。

ですから、社会構造を変えたり、産業のあり方を考えていくことが、自分にとって、本当の意味で薬害エイズ問題を終わらせることだと考えています。そのためにもこれからも国会議員としてできることを発信していくつもりです。

近聞遠見



岩見 隆夫

衆院の議席数が多い順に並べると、民主、自民、公明、共産、社民、みんな、国民新、新党日本の8党がこの年の瀬、例外なく揺れている。変革期の政党はどつあるべきかと。そこに、業書エイズ被害者で無所属の川田龍平参院議員(東京選挙区・38歳)が一石を投じた。川田は1日の記者会見で、入党を求められた民主

主党を、「議員立法の禁止や議員連盟の加入制限など一党独裁的な政治が行われている。自由な発言ができない」などと手厳しく批判、誘いを断ってみんなの党(渡辺善美代表)に入党したと発表したのだ。

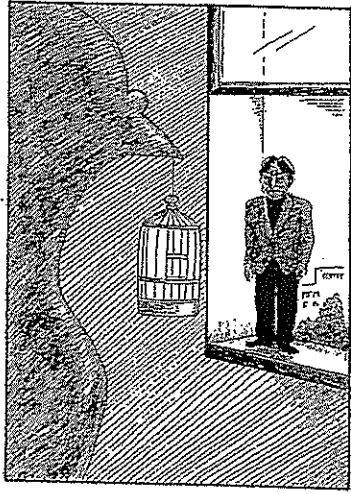
与野党勢力が拮抗している参院では、1議席が大事にされる。07年夏の初当選の直後から民主党に勧誘され、最近「13年の参院選に、東京から3人目の民主党候補(07年参院選では民主2議席)で立たないか」と誘ったという。一方、みんなの党とは、江田憲司幹事長が無所属のところから付き合いが長く、結党前に、「新党を作るが来ないか」と請われていた。社民党からも同一会派で、と誘われ、結局、3党から声がかかったのだ。

川田は支援者の会を何度も開き、意見を求めたが、3党の評価はマチマチだった。みんなの党について、年配の支持者から、「石原慎太郎といっしょにやるのか」と言われ、驚いたこともあった。

「新党を作るが来ないか」と請われていた。社民党からも同一会派で、と誘われ、結局、3党から声がかかったのだ。

川田龍平が投じた「一石」

る。渡辺代表の父、美智雄と石原らが昔、行動力派の青嵐会を作ったイメージがまだ残っていたらしい。川田は、「みんなの党はしがらみがなく、党議拘束もない。一途に入脱言懐を指摘していることにいちばん共感を覚えた。構造的な業書も言・業の癒着からだから」



え・西村晃一

基本法、原爆症救済法などが処理されたが、患者への配慮に欠け、すべて拙速、国対政と人気取り先行、と川田には映った。民主党を「一党独裁と決めたのは、小沢一郎幹事長批判か。」「小沢さんのことはよく知らない。業書エイズを訴えた

と入党を決断した理由を語った。それだけでは足りない。そんな面もある。時涙を流して聞いてくれた。そんな面もある。

「2大政党制は日本の社会になじまないと思えますね。暗い。民主の友人は『抑えられて何もできないよ』とほやいている。こんなこと、最く続かない」

みんなの党での新ポストは、浅尾慶一郎政調会長のもとで会長代理。入もつと動けば変わるが川田のキャッチコピー、一人一人の人間を大切に医療と教育に立ち向かうという。(敬称略)

薬害肝炎救済法案 参院委で可決

きょう成立

薬害C型肝炎被害者救

済のための特別措置法案

が10日、参院厚生労働委

員会で全会一致で可決さ

れた。救済対象から外れ

た肝炎患者らへの対策

などを求める決議も採択

した。法案は10日の参院

本会議で可決、成立する

見通し。

委員会は、薬害エイ

ズの被害者である川田龍

平氏（無所属）も賛同に

立ち、「同じ薬を投与さ

れた先天性疾患の人たち

を（救済から）除外して

いる。一律救済になつて

おらず、納得できない」

決議では▽投与証明に

関するカルテなど記録確

保のための措置▽イン

リンゲン、第9因子製剤

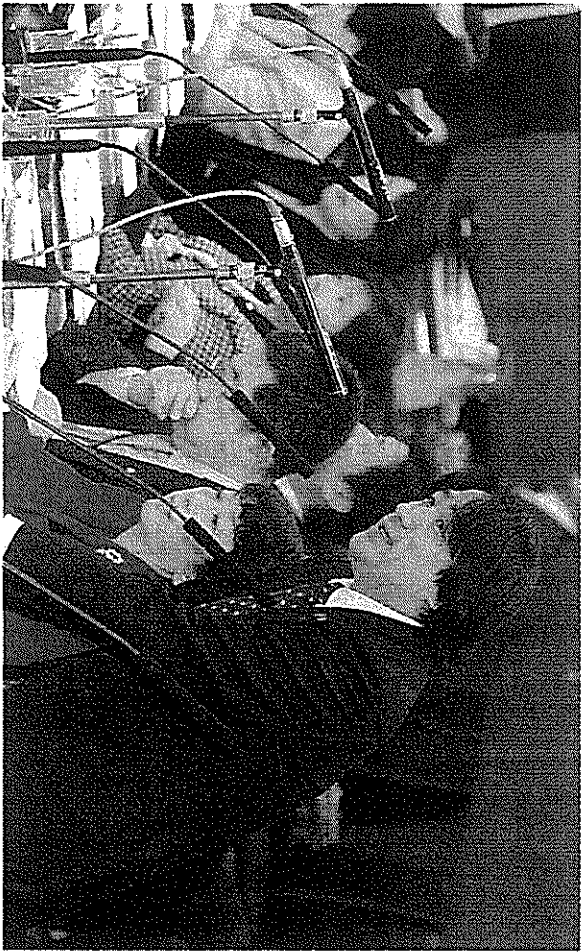
以外の血液製剤による

副作用報告の調査▽給付

請求期限（5年）の延長

検討、なども盛り込ん

だ。



参院厚生労働委員会で発言する川田龍平議員10日午後、国会内で、高波博撮影

薬害監視で超党派議連 第三者機関創設 今国会に法案

2013/03/05 産経新聞 東京朝刊 5ページ 800文字

薬害防止を目指し医薬品行政を監視する第三者機関を創設するため、今月下旬にも超党派の議員連盟が発足することが4日、わかった。議連は今国会中の関連法案提出を目指す。薬害C型肝炎訴訟の和解に伴い厚生労働省が設置した「薬害肝炎検証委員会」が平成22年、監視機関の創設を提言していたが、民主党政権は棚上げしていた。

議連は、自民党の福岡資麿厚生労働部会長や薬害エイズ訴訟の原告だったみんなの党の川田龍平参院議員らが呼びかけ人。会長は自民党の尾辻秀久元厚生労働相で調整している。

薬害肝炎検証委は「最終提言」で、薬害の再発防止を目指すため国を監視するための第三者機関の創設を求めている。監視機関は、国家行政組織法8条に基づく厚労省所管の「審議会」形式で、医薬品行政を扱う行政組織への調査権を与え、必要に応じて提言・勧告できる。

22年、当時の長妻昭厚労相は薬害肝炎全国弁護団との協議で「24年の通常国会に政府提出法案として提出できるよう制度設計を進めたい」と明言。23年7月には細川律夫、同年10月には小宮山洋子両厚労相（いずれも当時）が同じ方針を示したが、法案提出に至らなかった。

福岡氏らは今年2月から議連設立に向けて動きを開始。自民党内では同月下旬、厚労関係議員が監視機関に関する勉強会を始めた。



【用語解説】薬害C型肝炎訴訟

出産や手術などで、C型肝炎ウイルスに汚染された血液製剤を投与され感染したとして、患者が国と製薬会社に損害賠償を求めた訴訟。平成14年から東京地裁などで提訴され、国と製薬会社の責任を認める判決が相次いだ。19年に大阪高裁の和解勧告を受け、当時の福田康夫首相が議員立法による救済を表明。20年に原告1人あたり最大4千万円を支払う薬害肝炎救済特別措置法が成立したほか、再発防止策の構築を目指し、厚生労働省内に「薬害肝炎検証委員会」が設置された。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報(以下「情報」)の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.

強制不妊救済法 成立

19.4.24 毎日夕刊

おわび、320万円支給

被害者の求めと隔たり

旧優生保護法（1948、98年）下で不妊手術を受けさせられた障害者らへの救済法が24日、参院本会議で全会一致で可決、成立した。国家賠償訴訟が起された事案、判決前に被害者の救済法が制定されるのは異例。高齢化が進む被害者の早期救済と一歩前進した形だが、被害者側が求める一時金の額や周知方法と隔たりがあり、全面解決に向け課題が残る。早ければ同日中に施行され、6月末にも一時金支給が始まる。

欧州歴訪中の安倍晋三首相は成立後、「手術を強いられ、心身に多大な苦痛を受けてこられたことに対し、政府としても、旧優生保護法を執行していた立場から、真摯に反省し、心からおわび申し上げる」との談話を発表。法律の趣旨の周知や、差別を繰り返さない

首相談話「真摯に反省」

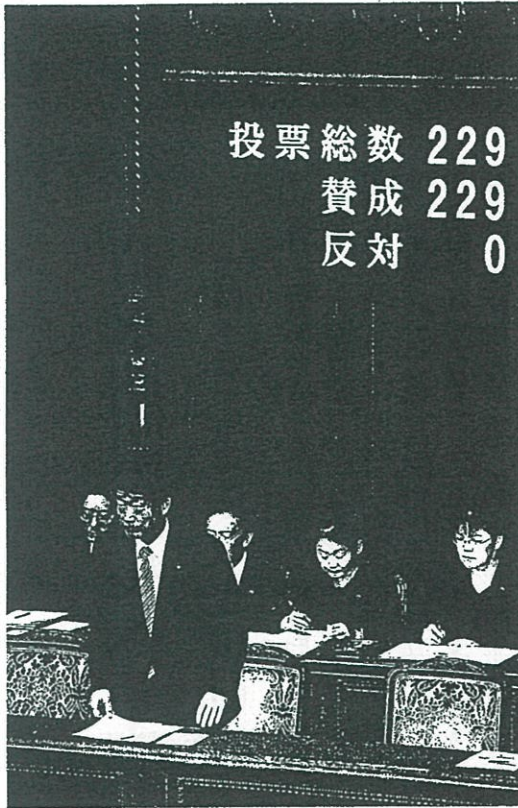
い社会の実現に尽力する姿勢を示した。障害者らへの不妊手術の規定が廃止された98年以降、政府は一貫して「手術は合法だった」との姿勢を取っている。だが、昨年1月に手術を受けた当事者らが国賠訴訟を起すと、与野ワキン

グチムと超党派の議員連盟が発足。議員立法による救済法案をまとめ、今日10日に提出した。前文では、被害者が受けた苦痛に対して「我々は、真摯に反省し、心から深くおわびする」と明記した。「我々」は国会や政府を含む

むとの解釈だが、裁判が続けていることも踏まえ、不妊手術の適憲性・違法性には言及していない。被害者らに一律で320万円を支給し、同法の規定に基づかない不妊手術を受けた人や、手術記録がなくても本人や関係者の証言で被害を認定できる人は、幅広く救済する。

認定業務を担当する審査会は今夏に厚労省内に設置され、医療、法律、障害福祉分野の有識者が委員を務める。同法下で不妊手術を受けた人は約2万5000人いるが、記録で氏名が特定できた人は3079人とと

【原田啓之】



旧優生保護法下で不妊手術された障害者らへの救済法が参院本会議で全会一致で可決、成立し一礼する根本匠厚生労働相（手前）＝国会内で24日午前10時52分、川田雅浩撮影

投票総数 229
賛成 229
反対 0

強制不妊救済法ポイント

- 被害者の心身の多大な苦痛に「我々は、それぞれの立場において、真摯（しんし）に反省し、心から深くおわびする」と前文に明記。
- 被害者の申請に基づき一時金320万円を支給。法施行日時時点で生存する本人に限り、故人や配偶者らは対象外。
- 強制手術だけでなく、本人が「同意」したケースも救済の対象。
- 厚労省に被害者の認定審査会を設置。記録のない人は本人の訴えや医師の所見などを総合的に勘案。
- 差別を繰り返さないため、国会が問題の経緯を調査する。

認定業務を担当する審査会は今夏に厚労省内に設置され、医療、法律、障害福祉分野の有識者が委員を務める。同法下で不妊手術を受けた人は約2万5000人いるが、記録で氏名が特定できた人は3079人とと

月曜コラム

ポリティカ につぼん

早野 透 (ホセコラムニスト)

それまでもなにを拒んで... 福田康平は期が回るといふ...

「美しき国」の安商「ハコロキ」... 内閣が高橋ひとし、福田「提案」...

薬害肝炎の救済

は表向き別の命令を装って参加... 野田は「薬害」を語りだした...

野田は中国残留孤児救済議員立法... 福田は「薬害」を語りだした...

肝炎患者を一律救済するのでは... 福田の思惑は「おまじや箱をひ」...

備ができていたという。「私は官... 福田の思惑は「おまじや箱をひ」...

急転劇生んだ自民の奥行き

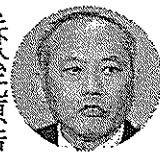
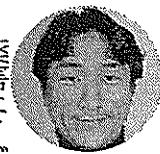


コラージュ=羽生春久

23日の田中元首相、福田康平... 「自民党」政権での水俣病、薬害...

川田氏の質問に舛添大臣タジタジ

薬害C型肝炎問題 厚生委員会で初対決



薬害エイズ訴訟元原告

の川田龍平参院議員(31)

無所属、写真上が10日、参院厚生労働委員会で質問に立ち舛添要一厚労相(59)と対決した。同委員会所属ではないが、薬害C型肝炎訴訟の被害者を一律救済する法案が審議されたため特別に許可された。

「こんなに早く厚生委員会で質問に立てるとは夢にも思っていませんでした」と感無量の様子。C型肝炎感染者でもあり「薬害をなくすのが議員としての使命」とキツパリ。「法案は先天性疾患の患者を除外している」などと鋭く迫り、舛添氏はタジタジ。

委員会後、川田氏は「大臣の答弁はやや官僚的だった」とチクリ。法案は11日の参院本会議で可決、成立する見通し。